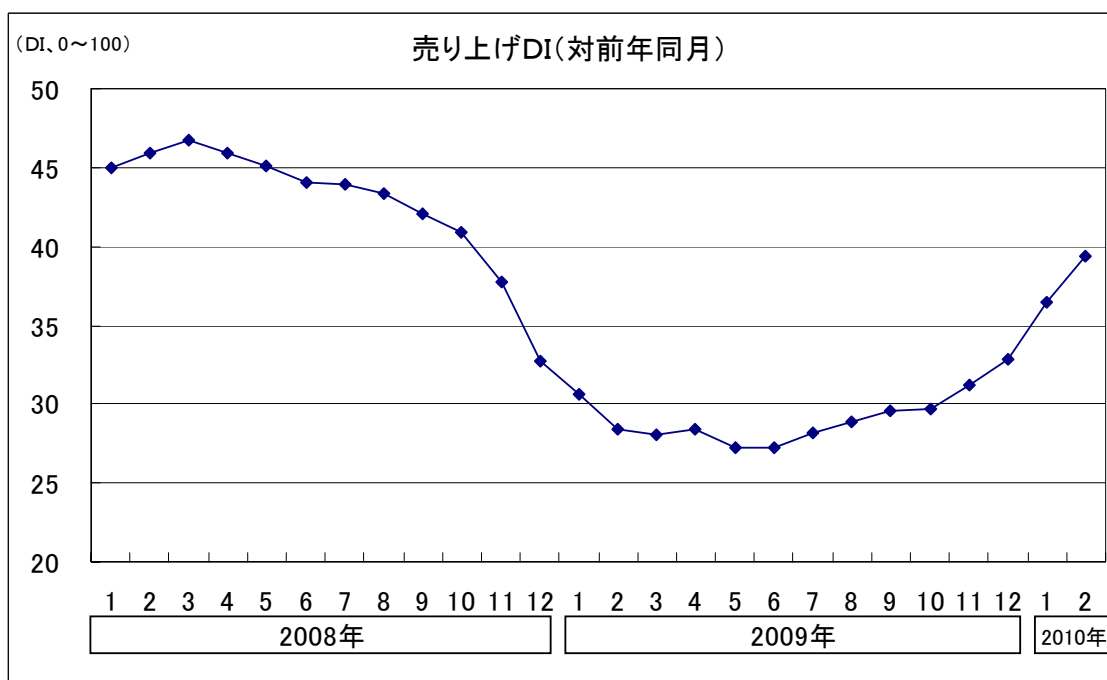


地域別にみた売り上げ DI (対前年同月) [TDB 売り上げ DI]

- ・ 売り上げ DI (対前年同月) は改善傾向
- ・ 2010 年 2 月の前年同月比での改善幅が大きい地域は、2009 年 2 月の前年同月比での悪化幅が大きい
- ・ リーマン・ショック前まで都市圏が売り上げ DI をけん引していた
- ・ 今後も改善が予測されるが、大幅な改善は見込めない

多くの企業では依然として売り上げが低迷し、厳しい状況が続いている。中国など新興国の需要増により売り上げが改善している輸出関連企業もあるが、人件費や流通などのコスト削減に取り組むなどして売り上げ減をカバーしようとしている企業が多い。売り上げが改善しなければ、企業は雇用や設備投資の増加には踏み切れず、景気の本格回復にはつながらない。そこで、TDB 景気動向調査における売り上げ DI の傾向を分析する。



上

高に対する前年同月と比較した認識を 0~100 で表した指標で、50 が判断の分かれ目となる。50 より水準が高ければ売り上げは増加、低ければ減少していることを表す。

2010 年 2 月の売り上げ DI は 39.3 となり、前年同月 (28.4) を 10.9 ポイント上回った。新興国の需要増や、エコカー減税、エコポイント制度により『製造』が前年同月比 18.4 ポイント増と大幅に改善したことや、政策的な下支えや低価格戦略により『小売』など内需関連も底上げされ、10 業界中 8 業界が改善している。

地域別でみると、全 10 地域で前年同月より改善した。リーマン・ショック時の悪化

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および無断引用を固く禁じます。

## DI 分析レポート

TDB 景気動向調査 (URL : <http://tdb-di.com/>)

が比較的小さかった『四国』『北海道』や、大幅に改善した『北関東』などの水準が高い。改善幅では、2009年に前年同月比の悪化幅が大きかった『北関東』『東海』『近畿』『北陸』の4地域が全国を上回った。

各年2月の売り上げDIをみていくと、2003年から2008年までは『南関東』『近畿』『東海』の都市圏が連続して全国を上回った。また、2004年から2007年までは上位3位を都市圏が占め、全国の売り上げDIをけん引していた。しかし、2009年は外需、内需の低迷の影響を大きく受けて全国を下回り、「輸送用機械・器具製造」が盛んな『東海』が最下位となるなど、都市圏は他の地域より大きく悪化した。2010年は化学品、リチウムイオン電池などの新興国向け輸出で下支えされた『近畿』が全国並となり、都市圏の順位は前年同月より改善したが、いずれも5位以下である。

<2008年2月の売り上げDIの順位>			<2009年2月の売り上げDIの順位>			<2010年2月の売り上げDIの順位>		
順位	ブロック	売り上げDI	順位	ブロック	売り上げDI	順位	ブロック	売り上げDI
1	近畿	47.3	1	北海道	33.5	1	四国	42.3
2	四国	47.1	2	四国	33.2	2	北関東	42.1
3	南関東	46.9	3	九州	31.3	3	北海道	40.4
4	東海	46.8	4	中国	28.8	4	九州	39.8
5	中国	46.0	5	東北	28.7	5	近畿	39.4
	全国	46.0		全国	28.4		全国	39.3
6	北関東	45.4	6	南関東	28.3	6	東北	39.2
7	九州	44.5	7	近畿	27.4	7	南関東	39.0
8	北陸	44.4	7	北関東	27.4	8	東海	38.4
9	東北	43.0	9	北陸	26.4	9	北陸	38.1
10	北海道	40.9	10	東海	25.5	9	中国	38.1

2008年まで売り上げDIをけん引してきた都市圏の順位が後退したのはなぜだろうか。売り上げは販売単価×販売量であるため、TDB景気動向調査の販売単価DIと生産・出荷量DIでみる。生産・出荷量DIは、リーマン・ショックを発端とする金融危機拡大による輸出不振により、2008年秋から急速に低下した。生産・出荷量DIの悪化幅は在庫調整のため低下した在庫DIより非常に大きく、販売量が大幅に低下したことがわかる。都市圏では輸出不振の影響を内需中心の産業が多い地方圏より大きく受け、2009年に販売単価DI、生産・出荷量DIともに都市圏すべてで全国を下回った。2010年になると販売単価DIは『近畿』が、生産・出荷DIは『近畿』と『南関東』が全国を上回っているが、けん引するほどの勢いはない。外需急減の影響を大きく受け販売単価、生産・出荷量が低下したことが、都市圏が売り上げDIをけん引できなくなった要因の一つである。

全国では売り上げDIは改善しているものの、すべての地域で判断の分かれ目である50を下回り、デフレの進行や新興国以外の外需、内需の回復は遅れている。地方圏は悪化が小さく都市圏を上回っている地域もあるが、すべての地域で2年前の水準に届かず、けん引する地域が見当たらない。

今後の売り上げDIは、雇用・所得環境が依然として厳しく消費者の生活防衛意識が高いことから内需を中心とした地域は伸び悩み、都市圏など輸出が盛んな地域は新興国の外需を取り込んでいくことで改善し、全国をけん引していく見込み。全国として

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および無断引用を固く禁じます。

## DI 分析レポート

TDB 景気動向調査（URL：<http://tdb-di.com/>）

は緩やかに改善していくものの、内需が厳しいことや、新興国の需要の失速などの懸念材料もあり、本格回復は見込めない。

（産業調査部 経済動向研究チーム K. S）